



春爛漫

妙光

復刊 94号

新潟の冬は日照の少ない日が続くので、春の訪れはことのほか嬉しい。境内は真っ赤なヤブ椿の花から始まる。なかでも鐘楼堂の脇の一本は、県内でも貴重な古木ではないかと専門家が教えてくれた。そしてこの時期は裏山に足を少し踏み入れたただけで、雪割草、ニリンソウ、ヒトリシズカ、福寿草といった山野草が目の前に広がる。

やがて梅からコブシ、桜、ユキヤナギ、梨、海棠、シヤクナゲ、オオデマリ、シヤクヤク、牡丹と書ききれないほどの花々が次々と目を楽しませる。

ことに桜は早咲きの枝垂れ桜、華やかなソメイヨシノ、妖艶な八重桜、清楚な山桜と続く。御衣黄という緑色の花びらを驚いたように見上げる人も多い。

仏さまにお供えする花々だが、お参りの方々には柔らかな日差しと心地よい春風とともに、冬の寒さで縮んでしまった体と心を解きほぐしていただきたいと願う。それに「ホー法華経」と鳴く鶯は、日蓮宗の寺の境内で聞くのが一番ふさわしい。

さまざまの事思ひ出す桜かな 芭蕉



行事案内



春のお彼岸中日法要

■日 時 3月20日(日)
午前10時半 安穩廟法要
11時 春季彼岸法要…本堂
12時 おとき(どなたでも当日受付)
午後1時 住職・佐藤上人法話…大広間
お彼岸は春秋二回、陽気も良くなり昼夜の時間が同じになるこの日、心の偏りをなくして仏様の教えを修行しましょうという古くからの行事です。どうぞ皆さんでお出かけください。



春の一日研修

妙光寺ゆかりの史跡参拝の旅

■日にち 4月9日(土)
●費用 1万円(昼夕食付)
●定員 45名
●申込み 4月5日までに電話、FAX、ホームページ連絡窓口から
妙光寺ゆかりの周辺霊跡を小川住職の解説で巡る、日帰りバスの旅です。行程の最後は温泉と夕食で懇親を深めます。妙光寺檀信徒及びその友人、どなたでもご参加いただけます。(詳細は別紙案内書を)



「寺泊・日蓮聖人銅像」

食で懇親を深めます。妙光寺檀信徒及びその友人、どなたでもご参加いただけます。(詳細は別紙案内書を)

ご判さま「お大会」

お稚児さん募集中

■日 時 4月29日(金)祝
午前8時半受付開始
江戸時代からの伝統行事。花と緑の境内を雅楽の先導でお練りの行列が続きます。お気軽にお参りください。(詳細は別紙「ご妙判」お大会のご案内を)
※出仕のお稚児さん募集中。どなたでもお申込みいただけます。(詳細は別紙案内書を)



月例信行会

■毎月第一日曜日 午前7時～9時
●会 費 千円(各自賽銭箱をお願いします)
予約申込み不用。当日直接お寺へお越し下さい。お参り、法話、作務、朝粥の朝食、コーヒータン等があり、交流の輪も広がります。



月例ボランティア

■毎月15日 午前9時～11時半 午後1時～3時
境内の清掃等をお願いしています。都合の良い時間にお越し下さい。昼食はご持参願います。

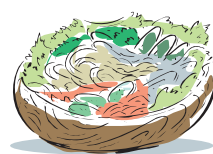
お寺でヨガ

■日にち 4月21日(木)・5月19日(木)・6月16日(木)
●時 間 14:00～15:15
●参加費 一回700円
●持ち物 ヨガマット、もしくはバスタオル
●講 師 ノリコさん
冬の間お休みしていたヨガですが、4月より再開です。春からは毎月第3木曜日の昼コースだけになります。日程をご確認のうえご参加ください。
※どなたでも参加できますが予約制ですので、その都度電話での連絡をお願いします。



若杉ばあちゃん食養講座・料理教室

■日にち 4月17日(日)
●料理教室(妙光寺厨房)
10時から 参加費 5,500円 定員20名
●講座①(大広間) 14時から 参加費3,500円
●講座②(大広間) 16時から 参加費4,000円
主催:未来食堂実行委員会(川鍋)
☎090-7014-4640
dechiffre_pedro@yahoo.co.jp
野草料理研究家で食養指導者、数々の著書もある若杉友子さんの料理教室と講座です。詳しくは直接主催者にお問合せ下さい。



あとがき

妙光寺の2016年は、ご前様の思いがけない入院で始まりました。(今はお元気ですので、ご安心ください) 今号には、ご前様が病室から撮影した「初日の出」の写真を乗せました。晴天の元旦の朝、山から昇る初日の出は素晴らしく、幾度もシャッターを切ったそうです。今号では、日蓮宗の「大荒行」の真髓を修法伝師・戸田上人から伺い、「大荒行」成満3日後の佐藤上人にも話を聞きました。2016年も『妙の光』をよろしくお願い致します。(新倉理恵子)



「感謝を胸に生きる」

新潟市西区青山 中原美智子さん（80歳）

中原さんは佐渡島の生まれ。4人兄妹の次女で、両親は味噌樽や手桶、人が乗ってワカメやサザエを採るタイ舟造りの職人だった。

結婚まで

高校を卒業後、田舎暮らしが嫌で、親の反対を押し切り上京した。幸い佐渡が本社の丸大味噌の新宿出張所で、住み込みの事務員として働いた。

当時会社は、佐渡出身者だけを雇用していて、男性社員には働きながら大学に通う制度があった。夫・克夫さんも、そのひとりだった。美智子さんは、克夫さんの卒業を待って職場結婚した。結婚式は、職場の仲間が事務所で盛大にお祝いしてくれた。

闘病生活を支えて

結婚と同時に夫婦で大阪出張所に転勤して6年が過ぎた時、30歳の克夫さんに腎臓の病気が見つかる。以来不治の病との闘いが始まった。やがて克夫さんは人工透析が必要となり、2人は治療のため新潟市に移り住んだ。美智子さんは、デパートで働きながら、入退院を繰り返す克夫さんの看病を続けた。デパート勤務の最後の15年間、克夫さんは透析の合併症に苦しみ、美智子さんは毎日デパートの制服を着て病院から出勤した。40年間に及ぶ闘病生活のなかで、あの頃が一番つらい時だったと思います。

檀徒として

克夫さんが夫婦で一緒に墓に入りたと言ったことから、2人は平成17年に安穏廟を求めた。そして平成22年に夫婦そろって生前戒名を受けた。その年の12月、克夫さんは他界された。佐渡から集まった親族とともに、妙光寺の京住院で心温まる葬儀を営めたことが忘れられないと言う。



以来、美智子さんは、自宅の仏壇で朝夕のお勤めを欠かさない。お寺の研修会、身延山団体参拝、月例信行会や毎月15日のボランテラなど年間の行事のほぼ全てに参加している。4月29日のご判様では、『靈山旗』を持ってお練りにも加わる。夏の「送り盆」では、信行会の仲間とともに法

要に出仕している。そして妙光寺お茶クラブの一員として、行事のお茶席で活躍。最近は、お茶クラブの仲間といっしょに着物の着付けも習い始めた。お寺以外でも、月4回の太極拳と、パッチワーク教室にも通って、多忙な毎日を元気に過ごしている。

感謝と恩返し

人生のほとんどを夫の看病に努めた美智子さんは、「今まで本当に大勢の人々から励まされ支えられて生きてきた。残りの人生は、支えられたことへの感謝を胸に、恩返しの気持ちで仏道を歩んでいきたい」と、いつもの柔和な笑顔で語ってくださった。（鎌田記）

安 穏

葬儀の事前契約

小川英爾

葬儀をしてくれる人のいない不安

神奈川県A子さんが安穏廟を契約されたのは平成6年でした。生涯独身で大企業の社長宅の住込みお手伝いさんなどを勤め、華やかな暮らしぶりの時期もあったそうです。ご自分の判断で高齢者施設に入居し、その後心身ともに弱ったので1歳年下で89歳の妹B子さんに後事を託しました。

託されたB子さんもご主人が亡くなり、一人娘は遠方に嫁いで一人暮らしです。「自分の方が先に逝くかもしれない。今ですらとても葬儀は勤まらない。葬式と埋葬だけでも妙光寺さんをお願いしたい」そう考えて、ひとりで電車を乗り継ぎ訪ねて来られたのは一昨年の秋も深まった頃でした。

1年がかりの契約

秋の日は短く、すぐに暗くなります。泊まっていたきじつくりお話を伺いました。A子さんは認知症も始めているということでした。でも、残念ながらこの時はいくつかの問題点があつて、お引き受けは難しいとお話しました。私の説明をきちんと受け止め、翌朝「ではこうしたらどうでしょうか」とご高齢なのにしっかりと、柔軟に考えておられるのに驚かされました。

私の挙げた問題点は、まず葬儀の事前契約



は本人との契約が前提なので、本人が認知症では契約も、費用の事前払込もできないこと。次に葬儀会館等では予め費用が読めないで、事前契約は妙光寺での葬儀を前提にしています。その際親族がいなくて県外からご遺体を搬送する手配が難しいこと。そして法律では役所への死亡届は親族または病院長などに限られていて、妙光寺ができないこと。この3点でした。これら乗り越えるのは難しく、小さなお身体の肩を落として帰られたB子さんの後ろ姿が、いまでも目に焼き付いています。

その後も、電話とお手紙でやり取りが続きました。B子さんから「新潟に行つてご相談したい」との言葉を幾度か頂きました。私は高齢の道中を案じて、「なんとか解決策をみつけますから」と説得しました。そして幸い、先頃全てが解決できたのです。

その解決策は次の3点です。契約についてはB子さんが姉A子さんの任意後見人なので、B子さんを契約者とする。銀行が姉の口座か

らの引き下ろしに同意しないときは、B子さんが自分の所持金で費用を納めると言われた。ご遺体は、神奈川県内から妙光寺へのご遺体搬送を受ける業者を、数社見つけた。死亡届は、数年前の法律改正で、妙光寺のような立場でも死亡届が出せると弁護士から回答があった。これを基に作成した文書を弁護士に確認してもらって、契約を交わすことができました。ご相談が始まってからちょうど1年が過ぎ、これで私も本当にほっとしました。

感謝の手紙

今年の正月も過ぎた1月半ば、B子さんからお手紙を頂きました。

「新春のお喜びを申し上げます。本年もよろしく願います。お送りいただきました書類を何時お届けしたらよいかためらいましたが、去る12月26日、姉A子のもしもの際の連絡先を施設の所長さんにお会いして、お渡しさせていただきました。その際20年前の夏のお盆に伺った折に撮った、妙光寺さんでの写真も見てくださいました。お陰様で無事に済ます事が出来有難うございました。どうぞよろしく御願い申し上げます。かしこ」

いつもと同じ、まるでペン習字のお手本のようなきれいな文字です。待ち続けた姉のために何とかしてあげたい切実な気持ちと安堵感が伝わる文章に、心洗われる思いでした。

百日間の大荒行は僧侶の心を磨く

日蓮宗には、毎年十一月二日から二月十日に及ぶ寒百日間の「大荒行」があります。遠壽院（千葉県市川市）は、その「大荒行」を四百年來受け継ぎ「祈祷根本道場」となっているお寺です。ここには、元禄5年（二六九二）最初の成満者となった日久上人を筆頭に、現代までのすべての成満者の名前を記した巻物があります。その中には鎌田上人の名もあり、佐藤上人も先月その列に加わりました。成満僧は木剣による「ご祈祷」を行う資格を得ます。歴史ある修法を現代に伝える戸田日晨伝師に、「大荒行」についてお聞きしました。



戸田日晨伝師（63歳）
遠壽院住職。修法伝師としての、日蓮聖人直授伝来の修法伝書を修行僧に相伝する任にあたっている。妙光寺小川住職とは、身延山修行道場で同期生となって以来の友人

——日蓮宗の「大荒行」は、どんなことをするのですか？

戸田 日課は、朝2時50分の起床に始まり、夜11時半の就寝に終わります。「水行」は、桶で井戸水を7杯から15杯くらい頭からかぶります。昼食はななく一日二食で、基本はお粥と野菜の入った味噌汁を、供養として修行僧たちが調理して食べます。精進料理ですから、魚や肉は食べません。そして、ひたすら水行と読経に集中します。肉体的に厳しい修行なので、男性の僧侶しか参加できないことになっています。

——髭も剃らないと聞いていますが、入浴は？

戸田 髭も切らないし髭も剃りませんが、週1回の入浴はありますし洗濯も清掃もします。不潔にしないで、身を清めて修行します。もちろん雑談はしません。百日間ともに過ごすのですから人間としての触れ合いはありますが、「雑談をしない」「おいしいものを食べない」「執着しない」の姿勢で、寂然として行をするのです。

——そもそも「大荒行」は、どのように始まったのでしょうか？

戸田 日本の仏教各派では、修験道などの影響もあつて、様々な形で「祈祷」のための修行が行われてきました。日蓮宗でも修行法がいろいろありました

修行僧の1日	
2:50	起床
3:00	水行
4:00	朝勤
5:30	朝食
6:00	水行
9:00	水行
12:00	水行
15:00	水行
17:30	夕食
18:00	水行
19:00	夕勤
23:00	水行
23:30	就寝
*他の時間は荒蕨の上で読経三昧。	

——法華経寺でも「大荒行」が行われていますね。

戸田 法華経寺では昭和40年代から「大荒行」が行われ、今年は150人ほどが修行したそうです。遠壽院でも毎年10人から15人が修行しています。現在日蓮宗の「大荒行」が行われているのは、この2ヶ所だけです。

——法華経寺の「大荒行」も、遠壽

院流行法なのですか？

戸田 日蓮宗の「大荒行」は遠壽院流だけです。法華経寺でも日久上人の次第で修行が行われています。

——「大荒行」を通じて修行僧は、心身を強くするわけですね？

戸田 いえ。「大荒行」は、鍛練ではありません。「祈祷」というのは、霊的なものに感応することです。極限状態に身を置くことで、自身をみつめて、霊的なものに感応できるようにしていくのが修行です。修行を重ねていくと、各々の修行僧が持っている深層的なものが見えてきます。それを自分でみつめていくのが修行ですから、その過程は一人ひとり違っています。たださすがに初行僧は、百日間で目に見えて変わっていきますね。

——「霊的なもの」について、もう少し説明してください。

戸田 霊的といっても、幽霊や靈魂のことではありません。言葉で説明するのは非常に難しいですが、目に見えないもの、今までの自分には見えていなかったものの、気付いていなかったもの、初めて何かを見出したり体験したりすると、人間は「すごい！」と思います。しかし、それはいいものである場合もあるけれど、悪いものである場合もある。修行の中で、行僧が「霊的なもの」を見出した時に、それがい

祝 成満！ 佐藤勝啓上人インタビュー

——百日の修行を終えた感想はいかがですか？

佐藤 終えてみると案外あつという間に思えます。入る前は不安もありましたが、何があつても最後までやりきろうと、命がけに近い決意で臨みました。無事に全うすることができて、ほつとしています。

——修行中つらかったことは、何ですか？

佐藤 最初の35日の自行期間です。『罪障消滅』といって、ひたすら自分の罪をみつめ、滅罪を祈ります。これは辛かったです。また行中の作法など覚えることも多く、少人数なので当番の仕事も常にあつて、非常に大変でした。

——自分が変わったと思ったのは、どの時点ですか？

ことですから、回数を誇るのはおかしなことです。私は、霊的な気付きがあり、言葉のやり取りはあまり行いません。とにかく読経三昧の一日一日を一緒に積み重ねていく中で、相伝していきます。ある意味で非常にシンプルなのです。さきほどお話ししたように、一人ひとり道すがすが違いますから、基本は1対1の指導になります。百日間には段階があり、最後に木剣の作法を伝授します。

——祈祷の時に木剣を使うお坊さんは、かつこいいですね。

戸田 かつこいいですか？木剣には「魔を斬る」「迷妄をはらう」という意味があります。周囲の目に見えないはらうべきものと対峙する姿勢を表しています。遠壽院には、日久上人が使った木剣と数珠が伝わっています。

佐藤 いろいろありますが、一般の方々にご祈祷をさせて頂いた一月でしようか。初めは、自分ご祈祷をするのが怖かったです。上手く出来なかつたろうしようと心配でした。遠壽院では、最後に初行者も導師を務めさせて頂きます。その時に、ご祈祷を受けに來られた方の真剣さに触れて、自分も一所懸命務めたら意外に満足できたんです。作法はあるけれど、自分なりの形で自由にやっていけばいいんだと感じました。そして、皆さんのために木剣を振らなくちゃいけないのに、自分の出来を心配するのはおかしいと気付くことができました。伝統ある遠壽院で修行させて頂いたのは、本当に幸福だったと思っています。

——良いお話をありがとうございました。（聴いた人 編集部 新倉理恵子）

佐藤上人水行と厄除け祈願祭 2月20日㊤、21日㊦

昨年11月1日から寒百日間、千葉県`遠壽院大荒行堂、での厳しい修行を終えた佐藤上人が無事戻りました。2月20,21日の2日間水行で身を浄めてから御宝前にご奉告、引き続きお参りの88名の方々に厄除け、家内安全、身体健全等の祈願法要を営みました。

雪も残る寒風の中、厄除け祈願法要の前に、水行で身を清めます



荒行を成し遂げ『遠壽院大荒行堂』を出る佐藤上人(前から3人目)



荒行を終えた僧侶だけがご祈禱することを許されます



法要の後、お汁粉で歓談する皆さん

雪の朝のお勤め

毎日朝のお勤めは、寒さの中でもいつも通りです。参拝の方の為、よほどの強風が吹き込まない限り正面は開放しています。



看板犬「もんた」

お参りに来られる皆さんに可愛がられて13年。最近は足腰が弱り、奥で寝ている事が多くなりました。玄関でのお出迎え業務もそろそろ退職かな…。



雪景色

角田浜は雪が少ないことで知られています。それでもひと冬に2回程、静寂に満ちた墨絵の世界のような風景が見られます。



大晦日とお正月

穏やかな除夜と正月に、たくさんの方がお参りくださいました。妙光寺お茶クラブによるお点前も好評でした。

今年は小川住職が体調を崩し、暮れの30日から1週間の入院で年末年始に不在という緊急事態でしたが、大勢のお手伝いの方々のご協力で事なきを得ることができました。住職は、いまは全快していますのでご心配ありません。



除夜の鐘にはたくさんの人の列



お焚き上げの火でスルメを焼きました



温かいこんにゃくと甘酒



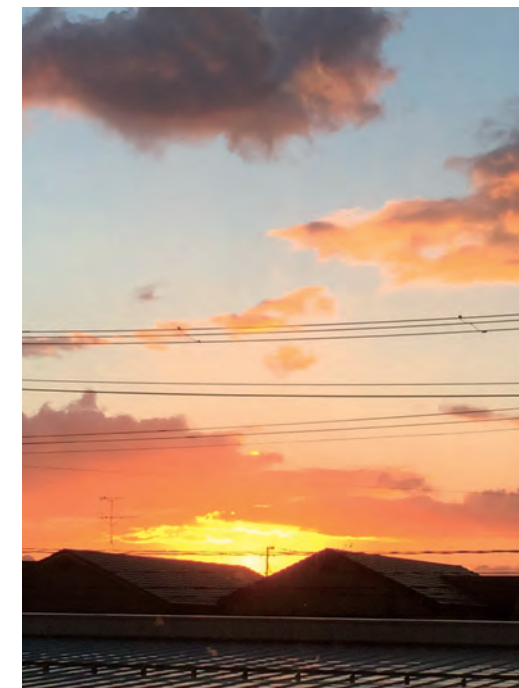
妙光寺お茶クラブ勢揃いでのおもてなし



子どもたちにも人気の福引



お年始の皆さんで賑やかな元旦



初日の出、病室で小川住職が撮影しました！

人事

百日間の荒行を成満した佐藤上人は、更にもう1年延長して妙光寺に勤務することになりました。小川良恵上人が各種の研修に出かけて不在がちになる見通しであることと、荒行期間を妙光寺の勤務期間で補うためです。

作秋に退職した寺務の小川綾の補充は予定がありません。柿崎さん一人です。ご不便をおかけすることと思いますが、ご協力をお願いします。

浄土化計画

「妙光寺を皆様の浄土にすること」を目的に、境内と建物の維持管理を安定的に行う財源として一昨春秋『妙光寺浄土基金』を設立しました。お陰様で2月末現在636件、総額5千590万376円のお申し出をいただいています。心から感謝申し上げます。

これまで客殿屋根大改修、三重塔土台修復、行事用台所エアコン新設、大広間改修に支出しました。今後は各種研修会等の開催、現在進行中の客殿改修工事、住職交代式等の費用

補填に充てる予定です。これらの用途が過ぎましたら正式なご報告をさせていただきます。引き続きのご協力をお願い申し上げます。

住職住居建替え

来年の住職交代に合わせて、老朽化した住職の住居を建て替え中です。これまでの場所が風通しが悪く湿気が強いので、勝手口通路脇に新築しました。こちらの経費の大半は住職退職積立金を充当しました。



解体中の旧住居

昔の『供米袋』眠っていませんか

昔、お寺参りや親戚の法事等に出かける際にはお米を持参する習慣がありました。このお米を入れる袋を

『仏供米袋』『米袋』と呼び、どこかの家庭にも必ずあるものでした。その多くが古い帯や着物の端切れを繋いだ、いわばパッチワークで作られていました。色が鮮やかで一つずつ柄が違い、自分の家の物を見分けやすかったのです。失われやすい貴重な品になりました。ります。お寺で収集したいと考えていますので、ご協力ください。

『送り盆』日程決定

「万灯の灯り」妙光寺の送り盆
今年は8月27日(土)に決まりました。現在内容を検討中です。ご予約に組入れておいてください。



現住職最後の『生前法号』

毎年秋のお会式に合わせて、希望者に生前法号(戒名)を授与しています。来年のお会式は住職交代式と併せますので、生前法号授与はお休

みします。現住職による授与は、今年が最後となります。次号で詳細お知らせしますが、ご検討おきください。

安穩廟の残数

永代供養墓の先駆けとして全国的に知られた『安穩廟』ができて27年が過ぎ、類似のものから新しい形態までたくさん出ています。

そのせいか以前ほどの件数はありませんが、お陰様で現在でも県内外からの問合せ、申込は続いています。現在受付中の『杜の安穩・池の上』も240区画のうち、残りは27区画です。従来の檀徒墓地でお墓の継承者不在が心配な方には、昨春「檀徒用安穩廟」が完成しました。いつでもお問い合わせください。



誌上法話 小川英爾

ふ し ゃ く し ん み ょ う

不惜身命

『妙法蓮華経・比喻品第三』

【意味】仏のために自らの命を惜しいと思うことなし



真田幸村と六文銭

真田幸村を主人公にしたNHK大河ドラマが人気です。戦国最後の激戦で散った幸村の逸話は、後に講談本や小説で庶民に知られました。知勇兼備の将・戦国一の兵という勇猛果敢な印象があり、特に大阪では大変人気の高い戦国武将です。

派閥や無能な権力者の跋扈する時代に少数の陣営で果敢に挑むその姿が、似通った現代に生きる人々に世代を超えて共感されているのが人気の理由ではないかと、何かで読みました。

真田幸村と言えば、旗印は家紋の六文銭が有名です。六文銭は三途の川を渡る船の渡し賃として、死後に棺の中に納められました。昔の人々の間には死後の最初の行き先であろう六道世界(地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上)に対する意識が非常に強く、これにあやかって「死者に六道の数にあった銭を持たせれば清く成仏できる」と考えたようです。今は紙に印刷され、葬儀の習慣として残っています。

不惜身命

この真田幸村の家紋は『不惜身命の六文銭』と言われます。戦乱の世の武将として、戦場での駆け引きだけでなく日常においても自らの死を惜しまない、覚悟を、三途の川の渡し賃となる六文銭で表したといひます。

大相撲の元横綱貴乃花関が、平成6年横綱



昇進の際の口上で「相撲道に不惜身命を貫く所存です」と述べたことは当時話題になりました。「命を惜しまず、相撲道に精進する」という意味で、これは俳優の緒形拳さんからいただいた言葉なんです」と取材で答えていましたが、そもそもの由来は『法華経』です。

不自惜身命

『法華経』にはこの「不惜身命」の他に、「不自惜身命」が出てきます。こちらは『如来寿量品第十六』という皆さんには最もなじみのあるお経にあります。「自らの命を惜しむことなく仏様(お釈迦様)に出会いたい、真のお気持ちを十分に理解したいと心から願う」という私たち信者の心構えを説かれた一節です。

「不惜身命」「不自惜身命」は、ひたすらな決意と行動がなければ物事の成達は困難であるという教えです。せちがらくなった現代社会で、今またこの言葉が人々の共感を呼んでいるようです。仏教信者にとっては常に基本となる大切な言葉なのです。

小川なぎさ

「ささやかに暮らそう」



ちょっと贅沢？

建物改修工事のため、住まいの風呂を取り壊しました。それで「お風呂は3日に一度近くの日帰り温泉に行こうね」とリョウケイさんと決めて贅沢(?)をしています。雪、木枯らし、さえざえとした星空のもとでの温泉。湯煙のお風呂は暖まります。余談ですが、シャンプー洗髪を止めてお湯だけで洗うことを始めて2ヶ月経ちました。作家の五木寛之みたいな髪型になっているけれど、ふさふさしてきたような気がするし、洗髪も楽なので、余計に楽しい温泉生活を楽しんでいます。以前何かの折「日本人はやっぱり仏教じゃないかね。湯船に浸かったとき、`あー極楽、極楽。`と言うでしょう。天国とは言わないよね!」と友人のKさんが言った言葉を思い出して一人笑っています。本当だね…フフフ。

たくさんの処分品から

改修工事で、たくさんのものを処分しました。辛かったのは、実家から持ってきたピアノでした。老後の楽しみにしていたのです。寺の暮らしでは趣味を持つことは本当にむずかしく、まして空いた時間に下手なピアノを弾くなんて無理でした。

子育てをしながらしていた編み物や縫い物の道具も中途半端でたくさん出てきました。お彼岸の中日に玄関に出しておきますので、どなたか趣味の方にもらっていただけるとうれしいです。

つらつら考えながら片付けていると、いろいろなことを思いついては中途半端だったことが多い自分の過去が悔やまれます。今はこれから新しい自分になって仕切りなおし! と思います。恥ずかしい過去は捨てました(笑)。半面たくさんの処分品の中から幸せのかけらを見つけては心の中に充電! といった時間をすごしました。

ところが新しい問題発生…

客殿屋根の葺き替えから始まった住職交代事業の工事。皆様の浄財をもとに進めてきましたが、新しい問題が発生しました。境内の地盤にどうも問題があるということです。地盤に地下水の通り道があり、それで湿気、陥没、土台の傾きがおこっているらしいのです。

長年住職が境内の洪水に悩まされ腐心して来たことを知っているだけに、最後もまた水! とかわいそうに思いますが、`歴代住職の中の土木担当。`といわれているご前様ですから乗り切ってくださいな。やはり浄土への道は一筋縄ではいきませんね。

この先どのように進んでゆくとしても、私はこの空間を清潔ですがすがしい雰囲気をかもし出せるものにするために、掃除をまじめに? やっていかうとおもっています。

素朴でささやかな日常とすがすがしいお寺の生活!! が目標です。春から始まるこの新年度、またどうぞよろしくお願いします。

質問

法要の前後にメロディーのついたお経がありますが、その意味は?

法要の中で唱える歌のようなもので、「声明」といいます。日蓮宗では、法要の始まりに仏様をお迎えする『道場偈』や、華を散らして場を荘厳する『切散華』など、七つの曲を主に唱えます。声明によって、音律を整え、声を整えることで、法要に音楽的な深みが生じ、仏様に法悦を捧げるのだとされています。声明はインドから中国を経て日本に伝わってきました。現在でも天台声明、真言声明など各宗派で独自のものが伝承されています。声明には、五線譜のように正確な音を示した楽譜はありません。旋律の上下や揺れのみを表す、墨譜・博士を参考に口伝で伝えられました。そのため、どの宗派でも地域や個人によって差異が生じ、宗内でも様々な流派が生ずることになりました。日蓮宗では法華経の読誦と唱題が重要とされてきたため、声明はおろそかになる傾向にありました。しかし、昭和6年の宗祖六百五十遠忌法要をきっかけに、声明技術を統一し、七曲を宗定声明として定めました。現在では、音程の正確さや法要での所作を基準とした「声明師」の資格を持つ僧侶もおり、熱心に声明の伝承に取り組んでいます。



第5回

新潟にUターンして一年になりました。



「お父さんの前で一度泣いたほうが良いわよ」。新潟に帰ることが決まった時、先輩の尼僧さんにこんな饒別の言葉を頂きました。彼女も、私と同じく姉妹の長女で、住職である父親の後を継いでお坊さんになった人です。志を立てて出家し、勉強も修行もしてきたものの、いざ俗名から僧名に名前を変える時に、込み上げてくるものがあつたそうです。娘の涙を見た住職は、決めていたよくある尼僧名を一晚で考えなおし、とても思いのこもった文字に変えてくれたとお聞きました。その時に、責任感から一歩抜けだして、僧侶としての決意を立てられたのでしょうか。私にとって尊敬する先輩です。

アドバイスに従って泣いてみようかな…と考えて、思い出したことがあります。実は、初めて坊主頭にする時、「髪は女の命と言うし、自分の坊主頭を見て涙が出るかな?」と少し心配していたのです。剃髪後、鏡に写った自分を見て思ったのは「父ちゃんにそっくり!」でした。泣き落しよりも、笑いを取る方が向いているかもしれない。楽しいお寺にしたいです。良恵です。